

5.22 狭山市民集会・キリスト者前段集会

①キリスト者前段集会 10:30 日比谷図書文化館大ホール ②狭山市民集会 13:00 日本教育会館一ツ橋ホール

私たちは2026年5月22日(金)10時30分から狭山市民集会・キリスト者前段集会を日比谷図書文化館でひらきます。集会後、13時から日本教育会館で開かれる狭山市民集会に合流します。集会への参加と新100万人署名への協力を呼びかけます。

狭山事件とは

1963年5月、埼玉県狭山市で女子高校生が誘拐・殺害される事件が起きました。警察は、被差別部落への差別と偏見に基づく見込み捜査して、石川一雄さんを別件で逮捕しました。違法な取り調べによって「自白」を強要され、一度は死刑判決を受けましたが、無期懲役に減刑された後、1994年12月に仮釈放されました。石川さんは逮捕直後から一貫して無実を訴え続けました。

現在の状況(第四次再審請求)

半世紀以上闘い続けた石川一雄さんは2025年3月11日に逝去されました。現在は、連れ合いの石川早智子さんが遺志を引き継ぎ、東京高裁へ2025年4月「第四次再審請求」を申し立てて闘いの最前線に立っています。2026年3月新たに前田巖裁判長が就任しました。弁護団は前田裁判長にプレゼンをすることが予定されています。前田裁判長は、過去に最高裁で「科学的証拠を用いた裁判の在り方」について研究執筆した司法界きっての「科学的証拠の専門家」です。だからこそ、私たちが現在求めている鑑定人の『証人尋問』の実施に焦点が定まったと言えます。

無実を示す「決定的な新証拠」

最新の科学鑑定によって、無実を証明する証拠が提出されています。

万年筆のインク鑑定: 石川さん宅から発見された万年筆のインクが、被害者の万年筆のインクと「全く違う成分」だと蛍光X線分析で証明されました(警察の証拠捏造と秘密の暴露の崩壊)。(ウラ面参照)

脅迫状の筆跡鑑定: コンピュータ解析により、犯人の残した脅迫状は99.9%以上「石川さんとは別人の筆跡」であることが証明されました。

私たちのお願い

現在、最大の焦点は、これらの科学的証明を行った専門家から東京高裁が直接話を聞く「鑑定人の証人尋問」を開かせることです。これにより再審開始、無罪を勝ち取ることができます。司法の重い扉を開くため、集会参加と皆様の署名へのご協力とご支援を心よりお願いいたします。

新100万人署名への協力を



呼びかけ人 NCC 日本キリスト教協議会総幹事 大嶋果織
部落問題に取り組むキリスト教連帯会議議長 大内富男
日本基督教団部落解放センター運営委員長 鈴木 祈

①キリスト者前段集会 10:30
日比谷図書文化館 B1 大ホール

最寄り駅
三田線内幸町駅
千代田線霞ヶ関駅
千代田線日比谷駅
日比谷線日比谷駅

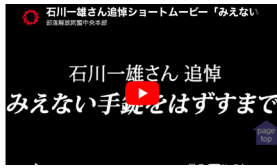


②狭山市民集会 13:00
日本教育会館一ツ橋ホール

最寄り駅
三田線神保町駅
半蔵門線神保町駅
半蔵門線九段下駅



石川一雄さん追悼動画と石川早智子さんの訴え



石川一雄さん追悼ショートムービー「みえない手錠をはずすまで」(監督：金聖雄)



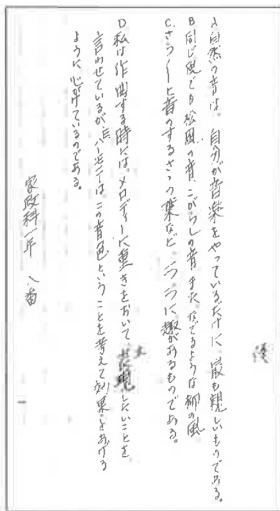
狭山事件第4次再審請求人 石川早智子さんの年頭のビデオメッセージ(2026年1月)

東京高裁は鑑定人の証人尋問の実施を

下山第2鑑定

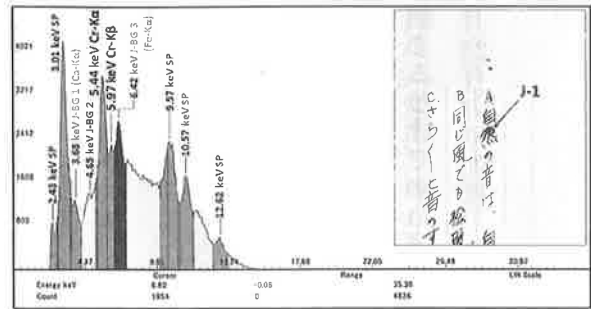
蛍光X線分析で
インク含有元素を検査

証拠の万年筆は被害者のものとはいえない



▶被害者が事件当日に書いたペン習字浄書のインク
＝クロム元素が含まれている

▼被害者が使っていた
インク瓶



▲ペン習字浄書インクの蛍光X線分析の結果。蛍光X線がエネルギーごとにどれぐらいに発生しているかピークになってあらわれる。ピークの高さが測定された元素の数を示す。クロム元素固有の蛍光X線が発生していることがわかる。

狭山事件では、石川さんの家から自白の通り被害者の万年筆が発見されたとして有罪の証拠となっています。下山進・吉備国際大学名誉教授は、蛍光X線分析装置を使って、証拠開示された発見万年筆で書いた数字のインクと被害者が書いたペン習字浄書のインクなどにふくまれる元素を調べました。その結果、被害者が事件当日に使っていたインクや被害者のインク瓶のインクにはクロム元素が含まれていましたが、発見万年筆のインクにはクロム元素が含まれていないことが明らかになりました。石川さんの家から発見されたとして有罪の証拠とされた万年筆には被害者の使っていたインクは入っておらず、被害者の万年筆とはいえないことが科学的に明らかになりました。

(「狭山差別裁判」第509号から)

万年筆は疑問だらけだ
東京高裁は狭山事件の
再審開始を！